



社協だより

第13号

みどり

発行 社会福祉法人 横浜市緑区社会福祉協議会 緑区中山町413-4/ハーモニーみどり内 TEL 931-2478 FAX 934-4355
ホームページ: <http://www.midori-shakyo.jp>

劇を見ながら、「見えない障がい」についてみんなで考える

平成19年3月発行

新しい福祉教育の取り組みが行われました!

霧が丘小学校 12月 5年生の総合学習の授業で

小学5年生の自閉症の女の子まりちゃんがお母さんとホームで電車を待っています。信号故障で電車が遅れるという放送がながれ、まりちゃんは「早く帰りたい! テレビの番組に間に合わない!」とパニックになってしまいます。お母さんは「大丈夫、落ち着きなさい」と必死に落ち着かせようとしますが、パニックはとまりません。近くにいた乗客Aさんは心配そうな顔で見えています。乗客Bさんは、うるさくてたまらずその場を離れてしまいました。

こんな寸劇を緑ハートバリアフリー実行委員会(※)のメンバーが生徒の前で行った後、「まりちゃんのお母さんは、どうして困っているのでしょうか?」「さあ、あなたがたがそばにいたらどうしますか?」と、生徒と会話をしながら授業を進めていきました。

「まりちゃんはわがままをいっている」「感情をコントロールできなくて困っている」「お母さんは誰かに助けてもらおうと悩んでいる」などいろいろな意見が生徒からでました。



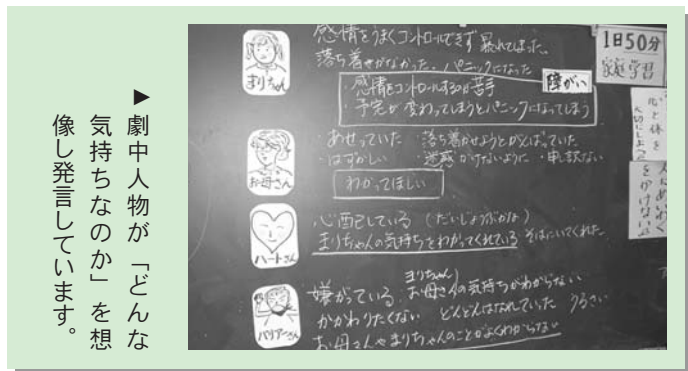
「自閉症」について、予定通りに物事が進まないとパニックになりやすい、コミュニケーションが苦手なこと等を説明しました。親は子どもの育て方が悪いと誤解されやすく、周りから理解されないという悩みを持っていることを紹介しました。

「障がいのある子どもが生まれた時、親はどんな気持ちですか?」といった質問が生徒からあり、その家族が率直な気持ちを語る場面もありました。

障がいを知るだけでなく、家族の気持ちについても考えることができたことは、思いやりの気持ちを育てる良い機会になったのではないのでしょうか。



▶ 母親がまりちゃんを落ち着かせようとしています。
乗客Aさんは心配そう。
Bさんはうるさそうにしています。



▶ 劇中人物が「どんな気持ちなのか」を想像し発言しています。

※「緑ハートバリアフリー実行委員会」とは?

障がい者は何もできない特別な人ではありません。日々の生活に不便なことが多く不自由なことはあるけれど、「みんなと同じように生きてみたい」「みんなと同じように楽しみたい」という気持ちを持っています。そんな気持ちを地域の方に伝えたいという思いから、障がい当事者やその家族、ボランティアで会を結成しました(現在12名)。現在は、様々な障がいについてお互いが学びあい、小中学校で福祉教育を実践するため話し合いを重ねています。



みどりちゃん

この広報紙は赤い羽根共同募金の一部を活用して発行しています